

2021(令和3)年度決算について

学校法人大手前学園
理事長 福井 要

2021(令和3)年度学校法人大手前学園の決算は、東陽監査法人並びに監事の監査を経たうえで、2022年5月25日(水)開催の理事会で承認されました。ここに決算概要の説明と決算諸表の公開を以下のとおり行います。

【決算概要】

(1) 資金収支計算書

資金収支計算書は、年度の諸活動に対応するすべての資金収入と資金支出の内容と支払資金の顛末を明らかにする書類です。ここでは、予算額との比較で説明します。

2021年度の決算は収入の部合計で、104百万円減の206億65百万円となりました。これは、資産売却収入や前受金収入が当初の予想よりも下回ったことによるものです。

一方、支出の部では主とし資産運用支出が当初の予想よりもかなり下回ったため、翌年度繰越支払資金を除く支出合計で6億11百万円の増加となりました。

結果として、翌年度繰越支払資金は、5億6百万円増の44億17百万円となりました。

活動区分による資金収支の状況は、教育活動による資金収支差額が6億4百万円の収入超過、施設整備等活動による資金収支差額が9億69百万円の収入超過、一方でその他の活動による資金収支差額が6億円の支出超過となりました。これにより、支払資金の増減額は9億73百万円の増加となりました。

(2) 事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、事業活動収入と事業活動支出の内容を明らかにし、その均衡状態(経営状態)をあらわすもので、企業会計の損益計算書に該当するものです。ここでも予算額との比較で説明します。

事業活動収入計は33百万円増の100億94百万円、事業活動支出計は83百万円減の81億69百万円となり、その結果基本金組入前当年度収支差額は、予算額より1億17百万円多い19億24百万円の収入超過となりました。

活動区分毎に見てみますと、教育活動収支は、収入面で学生生徒納付金の増加により、14百万円増の60億26百万円となりました。一方で支出面は、主として教育研究経費の減少により、22百万円減の60億29百万円となりました。結果、教育活動収支差額は、予算額より35百万円支出減の4百万円の支出超過となりました。

教育活動外収支は、収入の部で受取利息・配当金が予算より上回ったことから、教育活動外収支差額は、4百万円収入増の31百万円の収入超過となりました。

特別収支は、収入面で現物寄付の増によるその他の特別収入の増加で、15百万円増加し、支出面では資産処分差額が61百万円減となったため、特別収支差額は、77百万円収入増の18億98百万円の収入超過となりました。

(3) 貸借対照表

貸借対照表は、期末における学園の財政状態を示します。ここでは、前年度決算額との比較で説明します。

まず、資産の部ですが、有形固定資産は、いたみ稲野キャンパス敷地の売却により75億1百万円減少しました。

一方で、特定資産が68億26百万増加したことにより、固定資産全体では57百万円の減少にとどまりました。

流動資産は、現金預金の増加等により9億63百万円の増加となりました。

結果として、総資産額では、9億5百万円増の421億73百万円となりました。

負債の部では、前受金等の減少により、負債合計で10億19百万円の減少となりました。

従いまして、純資産額（総資産額－総負債額）は、前年度末に比して19億24百万円増の369億78百万円となりました。また、総資産額に占める割合（純資産比率）は、前年度末より2.7ポイント増の87.7%となりました。

尚、各々の科目の数値については、別掲の「資金収支計算書」「事業活動収支計算書」をご覧ください。また、経年の比較と財務比率等については、「事業報告書 財務の状況」をご覧ください。

以上